整理番号

D－2－3　　790

標 題 名

日高水田農家の水稲稲熱病、泥負虫防除に就いて

著 者 名

発行者名

日高支庁

発 行 年

昭和１４

製作年月

平成２９年３月

昭和十四年四月

水稻稻熱病竝泥負蟲防除指導資料第二號

日高水田農家の水稻稻熱病泥負蟲防除に就て

日高支廳
日高郡農會

水稻稻熱病並泥負蟲防除指導資料第二號

日高水田農家の水稻 稻熱病 泥負蟲 防除に就て

水稻稻熱病竝泥負虫防除に對しては當業者農家諸君の熱心なる實行と各關係機關の指導施設によつて年々相當の成績を見て居ることは誠に喜ばしい次第である

而しながら中には防除を怠つたり又は折角苦心して其の勵行に努めたにも拘らず防除の時期や作業方法が適當でなかつた爲充分な効果を擧げられない農家も頗る多い、處が今年は四月二十二日北海道廳令第十八號を以て害虫驅除豫防法により防除命令が發せられた

此の廳令は萬一防除を怠つたり或は役場農會等の指圖に隨はない者は科料に處せられることになつてゐるので從來よりも一層其の地方の實情や病害虫の發生狀況をよく考へて一定の防除計畫を樹て一人殘らず防除の効果を擧げると共に違反者の出ない樣に希望する

今取敢へず之が防除計畫の據るところを御知らせする

昭和十四年四月

日高支廳
日高郡農會

稻熱病

期間	事項	方法
第一次發生防止期間 自四月二十二日 至五月三十一日	(1)種籾ノ消毒	必ズ「ホルマリン」消毒ヲ行フコト
	(2)被害藁(籾殼ヲ含ム)ノ處分	イ、藁及籾殼ヲ生ノ儘水田ニ肥料トシテ施スモノ又家屋ノ附近畦畔等ニ散乱セシムルモノ多キガ之ハ發稻ノ最大誘因ヲナスモノニ付嚴重ニ處置スルコト ロ、溫冷床苗代ノ設置ニ當リ藁框ヲナスモノアレド之亦稻熱病發生ノ原因ヲナスモノニ付使用セザルカ萬一使用スル場合ハ熱湯ニ二十度以上又ハ入浴後熱湯トシテ攝氏五〇度十時間以上浸シ殺菌シテ使用スルコト ハ、道路上ノ藁及之ガ製品ハ農事合同組合員協力シテ清掃スルコト ニ、被害藁ヲ運搬スルトキハ莚以外ノモノデ被覆スルコト
第二次發生防止期間 自六月一日 至九月二十日	(1)施肥	イ、施肥ノ適正ヲ計リ泥炭地又ハ柱土地ニ對シテハ腐熟堆肥一五〇貫ヲ標準トシテ使用シ末熟ナモノハ絶對使用セザルコト ロ、肥料三要素ノ割合ニ注意シ發生地帶ニハナルベク窒素分ヲ減少セシメ燐酸加里ヲ增施スルカ稻ノ代リニ稗ヲ作付スルコト ハ、合理的ナラザル追肥ハ行ハザルコト
	(2)灌排水ノ管理	イ、冷水ヲ掛ケ流ノ防止ヲナスコト ロ、泥炭地ニシテ灌水ノ爲排水溝ヲ堰止メル場合ハ灌水期間中月二回惡水排除ヲ勵行スルコト
	(3)苗取藁ノ消毒	イ、熱湯ニ二十分間以上浸漬スルコト ロ、入浴後ノ風呂ヲ熱クシテ攝氏五〇度之ニ十時間以上浸漬スルコト ハ、種籾消毒ニ使用セル「ホルマリン」ノ殘液ニ六時間以上浸漬スルコト
	(4)葉稻熱病ノ防除	イ、葉稻熱病ノ發生ニ常ニ留意シ之ヲ發見セル時之ヲ刈取燒却スルコト ロ、刈取燒却後ハ直チニ六斗式過石炭ボルドウ合劑ヲ被害田ニ撒布スルコト
	(5)藥劑ニヨル豫防	イ、第一回生育期七月上旬ー中旬過石炭ボルドウ合劑及當四ー六斗撒布スルコト ロ、第二回開花前七月下旬藥劑ハ第一回ト同樣ノモノ撒布スルコト ハ、第三回開花後八月中旬四斗又ハ六斗式過石灰ボルドウ合劑及當六ー八斗撒布スルコト ニ、例年ノ發生地帶ニハ更ニ八月下旬第四回撒布ヲナスコト
	(6)落水期ノ遲延	發生危險地帶ハ穗届後穗揃期ヨリ約二週間迄落水セザルコト

泥負虫

期間	(1)防除スベキ形態	(2)防除ノ場所	(3)防除ノ方法
第一次發生防除期間 自五月下旬 至六月中旬	成虫	苗代及水田ノ畦畔	イ、苗代ニ對シテハ砒酸石灰ノ撒布又ハ舟型網ノ使用 ロ、水田ノ畦畔ニハ除蟲菊石鹼液、砒酸石灰ノ撒布又ハ舟型網ノ使用
第二次發生防除期間 自六月中旬 至六月下旬	成虫	本田	イ、反當二ー六斗ノ砒酸石灰ヲ撒布スルコト ロ、砒酸石灰ノ撒布時期ヲ失シ相當被害ノ顯著ナル時ハ反當二ー六斗ノ除虫菊石鹼液ヲ撒布スルコト ハ、噴霧器ヲ所有セザル農家ハ早朝露ノ上ラザルウチ又ハ寒冷ノ日ニ舟型網ヲ使用スルコト但使用回數ハ出來得ル限リ少クスルコト
第三次生防除期間 自七月上旬 至七月下旬	成虫幼虫	本田	イ、反當六ー八斗ノ砒酸石灰ヲ撒布スルコト ロ、噴霧器所有セザル農家ハ早朝露ノ上ラザルウチ又ハ寒冷ノ日ニ舟型網ヲ使用スルコト但シ使用回數ハ出來得ル限リ少クスルコト
第四次發生防除期間 自七月中旬 至七月下旬	殘留セル成虫、幼虫	本田	イ、反當六ー八斗ノ砒酸石灰ヲ撒布スルコト ロ、噴霧器ヲ所有セザル農家ハ早朝露ノ上ラザルウチ又ハ寒冷ノ日ニ舟型網ヲ使用スルコト但使用回數ハ出來得ル限リ少クスルコト

○ホルマリン液

(イ)稀釋法

一、ホルマリン小瓶詰(約一合五勺)ノ場合
一本ヲ一斗二升五合ニ稀釋スル……五〇倍液(消毒液)
一本ヲ六升三合ニ稀釋スル……二五倍液(補充液)

二、ホルマリンビール瓶詰(約三合五勺)ノ場合
其ノ中二合五勺ヲ一斗二升五合ニ稀釋スル……五〇倍液(消毒液)
殘ノ一合ヲ二升五合ニ稀釋スル……二五倍液(補充液)

(ロ)使用上ノ注意

四斗樽ヲ用ヒ消毒スル場合ハ樽ノ内側ニ一升毎ニ目印ヲ附ケ先ヅホルマリン五〇倍液一斗二升五合ヲ入レ之ニ豫メ水ニ浸漬シタ穗籾二斗五升ヲ水ヲ充分ニ切ツテ浸漬シ其ノ上ヲ莚デ覆ヒ三時間續過ツタナラバ引上ゲテ直ニ水ニ浸漬スル一回浸漬スル毎ニ元ノ容量ノ一割内外減少シ又濃〇モ落クナルカラ次回ノ消毒ニハホルマリン二五倍液ヲ減量ダケ加ヘルコト

尚ホルマリン原液ハ無色透明ナモノデアルガ往々白色ノ混濁物ガ出來ルコトガアル然シ小瓶デ其ノ量ガ底カ一寸位マデナラバ其ノ儘使用シテ差支ヘナイ

○過石灰ボルドウ合劑

(イ)調合量 硫酸銅一二〇匁 生石熱三六〇匁 水四ー六斗

(ロ)製法 大小三箇ノ桶ヲ用意シ內一箇ハ液ノ全量ヲ他ノ二箇ハ其ノ半量ヲ入レル桶ヲ定ムルモノトス先ヅ四斗式ヲ調製スル場合ニハ一箇ノ小桶ニ熱湯少量ヲ入レ粉末硫酸銅ヲ投入シ別ノ小桶ニハ生石灰ヲ入レ少量ノ熱湯ヲ除々ニ注イデ溶シ双方ノ小桶ニ水ヲ加ヘテ全量ヲ二斗宛トシヨク攪拌シタ後仝時ニ大桶ニ移シ棒ヲ以テ充分攪拌スル之ガ即チ四斗式過石灰ボルドウ合劑デ六斗ノ水ヲ以テ製シタ場合ハ六斗式過石灰ボルドウ合劑トナル而シテ之ニ松肥展着劑ヲ加ヘタモノガ松肥展着劑加用過石灰ボルドウ合劑デアル

○松肥展着劑

(イ)調合量 松肥二四〇匁 洗濯曹達一二〇匁 水二升

(ロ)製法 水二升ニ洗濯曹達一二〇匁ヲ加ヘ加熱溶解シタ後之ニ松脂二四〇匁加ヘテ煮沸溶解スル

松脂展着劑ハ出來上ツタボルドウ合劑一斗ニ對シ一ー二合ノ割合ニ加用スルノデアル本劑ハ調製後貯藏シテモ效果ニ變化ヲ來サヌカラ初メニ調製シテ置キ其ノ都度使用スルモヨイ

然シ近時松脂展着劑ノ代用品トシテ液狀ノロヂンソープ、ボルドウソープ、ボルドウグルウ等ガ出來テ居ルカラ之等ヲ使用シタ方ガ便利デアル

其ノ加用量ハ松脂展着劑ト同量デヨイ

○砒酸石灰(ニホナート、リマート等)

△ボルドウ合劑ニ混用スル場合

展着劑ヲ加ヘテ出來上ツタ過石灰ボルドウ合劑一斗ニ對シ砒酸石灰十八匁ノ割合ニ加ヘテヨク攪拌シテ使用スル

△砒酸石灰液トシテ單用スル場合

(イ)調合量 砒酸石灰十八匁、二十四匁 カゼイン石灰(又ハ大豆粉)九匁、十二匁 水一斗

(ロ)製法 水一斗ニカゼイン石灰(又ハ大豆粉)九匁、十二匁ヲ溶解シタ後砒酸石灰十八匁、二十四匁ヲ加ヘテヨク攪拌溶解シテ使用スル

○除虫菊石鹼液

(イ)調合量 除虫菊粉二十匁 石灰(出來得レバ魚油石灰ヲヨシトス)十五匁 水一斗

(ロ)製法 石鹼ヲ細削セルモノ又ハ純良ナル粉末石鹼ノ所定量ヲ水ニ投ジテ溶解セシメ除虫菊粉ヲ加ヘテヨク攪拌シテ其ノ儘使用スル

(ハ)調製診使用上ノ注意 使用ニ際シテ調製藥劑ヲ粗布デ濾過スルモノナルモポンプノ口ノ閉塞セヌ程度ニ除虫菊粉ノ混ズル方ガヨイ

54, 12, 12
植物防疫資料館
C－501－4057
木下 周太
寄贈
D
2-3
790